

「ボクの研究室ライフ」

触媒化学研究室(奥村研究室)は、奥村 和教授、飯田 肇講師、学生十数名から構成される研究室です。研究室は八王子校舎にあり、学生の居室と実験場所が一つになった部屋のため、時折するアンモニア臭や有機化合物の芳香の中、実験やデスクワークに向かうことがあります、日々楽しく・研究に励んでいます。

奥村先生は大変研究熱心で、学生に負けじと自ら実験を行なう方です。また、実験をしながら次々と浮かぶ斬新なアイデアにはかないません(笑)。飯田先生もまた熱血で、研究活動に限らず、生活指導や就職関係の相談に乗ってくださったりと、大変頼りになる先生です。そんな二人の先生の指導の下、我々学生はその姿勢を見習い、また勉強しています。

私の一日としては、朝 10 時に登校し、メールチェックを済ませた後、早速実験を始めます。実験は基本的に、午前中に触媒調製を行ない、その熱処理(6 時間程度)の間に触媒性能試験やさまざまなキャラクタリゼーションを行ないます。得られたデータはその日のうちに図や表にし、また時には文章や発表スライドにまとめます。早い日は 20 時に帰宅しますが、一日にやれる・やるべきことを密にこなしているため、たいていは 22~25 時に帰宅することの方が多いです。触媒の研究では、調製した触媒がちょっとした条件の違いで、その構造や活性が変化することから、思うような結果が得られないことが多く、また、一つの実験に時間がかかるため、精神的・肉体的に大変苦勞します。しかし、苦勞の末得られた多くのデータを一つにまとめ、そこから前代未聞の「発見」をした時、達成感や喜びを感じられることから、研究は楽しいと思っています。

研究室の学生は、もちろん研究第一に活動していますが 2~3 か月の単位で学生主体のイベントをしています。これまで、校舎内で BBQ や、奥村先生の趣味である山登り(つくば山や瑞牆山に登頂)をしたり、ボーリング大会やソフトボール大会で汗を流したり。ときには突然じゃんけん大会が始まったりする位、縦と横のつながりが良く、実験がうまくいかない日もめげず、学生同士一丸となって楽しく充実した研究生を送っています。